

「愛と誇りと活力に満ちた まちづくり」を目指して

はじめに

駒ヶ根市は、南北に細長い長野県の南部に位置しています。地域の西側を中央自動車道が通り、高速道路を利用すれば東京まで2時間30分、名古屋まで1時間40分の



全国各地から3000人以上のランナーが参加する「駒ヶ根高原マラソン大会」

アクセスにあります。西に中央アルプス駒ヶ岳、東に仙丈ヶ岳、北岳などの南アルプスを眺望し、二つのアルプスに囲まれた自然豊かな風光明媚な山岳観光都市であります。中央アルプスには高低差日本一の駒ヶ岳ロープウェイがあり、標高差950mを7分30秒で結び、可憐な高山植物が咲き競う夏や燃えるような紅葉に包まれる秋は、多くの観光客でにぎわっています。

毎年秋に行われる駒ヶ根高原マラソンでは、市内外から3000人を超えるランナーが紅葉に色付いた高原を走るさまは圧巻です。この高原マラソンは大正14年の「駒ヶ岳山頂登山マラソン」、昭和33年から昭和42年まで開催された「中央アルプス駒ヶ岳登山マラソン」などの古い歴史に支えられ始

まったものです。大会前日の前夜祭には、参加される皆さんに中央アルプスの伏流水を使用した地酒や地ビールなどを味わっていただくなど、市民、競技役員が一体となった郷土色豊かな大会となっております。

（夢を形に）

「こまちゃんイマジニア宣言」

市民や市民団体などによって行われている市民活動や地域活動は、夢と希望にあふれ、市民憲章にあります。「愛と誇りと活力に満ちたまちづくり」に向けて大きな力となっています。こうした市民や地域での活動を皆で応援し、認め合い、市民全体でまちづくりを盛り上げようと、「こまちゃんイマジニア宣言」を平成22年10月に行いました。



駒ヶ根産黒ゴマを使った「卓上こま」

「イマジニア」とは英語の「イメージ（想像する）」と「エンジニア（技術者）」を組み合わせた造語で、夢を形にすることを意味します。思い描いた夢や希望を形にすることは大変難しいことですが、それが実現したときには大きな力や財産となり、市民一人一人が地域を元気にするアクションとして、活力とにぎわいのあるまちづくりへつながるものと信じています。市民の皆さんによるイマジニア宣言の趣旨に賛同する市民活動を認定し、市のHPなどで活動を紹介したり、活動費の補助などの支援をいたします。今後は、さらなる市民活動の活性化やネットワーク化を進めていきたいと考えています。

「ゴマ」を地域ブランドに

農業を取り巻く環境も厳しい状況の中、全国的な健康志向の高まりとともに、食品の安全・安心が求められており、希少価値の高い国内生産物のニーズが年々増加している状況にあります。そこで、近年の健康ブームなどにより需要が伸びているゴマに注目し、平成19年にゴマ加工業者、生産者、菓子製造業者、J.A、行政、商工会議所などから成る「駒ヶ根ごまプロジェクト」を立ち上げ、農・商・工が連携した「ゴマ」のブランド化に取り組んでいます。ゴマは99・9%



「こまちゃんイマジニア宣言事業」認定式

が海外から輸入されていることを皆さんはご存じでしょうか。ゴマは古くから不老長寿の妙薬と呼ばれ、豊富な栄養素とともに生活習慣病やガン予防、美肌効果など、近年、健康食品として注目されています。無農薬で栽培された安心安全な地元産の黒ゴマ（駒）を使った「こま菓子」や「いりこま・すりこま」などを開発し、学校給食での使用や市内菓子店舗などでの販売を行い、市内外の方から好評をいただいています。今後は栽培面積の拡大、栽培作業の機械化、商品の販路拡大などさまざまな課題の解決を図りながら、「こまごませず」「こまかさず」地域の特産としてのブランドづくりに取り組んでまいります。

美しい景観づくりに向けて

天与の財産である雄大な景色や豊かな自然、先人が築いてきた町並みや農村風景など良好な景観を守るとともに、新たな景観をつくり出すため、市民・事業者・行政が一体となった取り組みとして、平成25年度からの「景観行政団体」への移行を目指しています。景観行政団体となることにより、建物

の高さやデザインなどの統一、地域のランドマークとなる建築物や樹木の保存活用、統一感のある広告看板の規制などが可能となり、地域の資源や特性を生かしたまちづくり、経済や観光の活性化などを図ることができます。現在、景観行政団体移行へのステップとして駒ヶ岳ロープウェイの玄関口である菅の台地区において、電線の地中化を進めており、市民の皆さんの景観への関心を高めるチャン

スと考えています。本年はワークショップなどで出された意見や提案などを反映した景観計画の策定に向けて、世界に誇れる景観づくりに取り組んでまいります。本市では、以上のような特色あるまちづくりを進めながら、常に市民の皆さんの立場に立って、日々の生活には「安心を」、未来には「夢と希望を」、地域には「活力とにぎわいを」そんなまちづくりに取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 165・92km²
- ◆ 人口 3万3856人
- ◆ 世帯数 1万2314世帯

〔将来都市像〕人と自然にやさしいはつらつとした文化公園都市

〔まちの特徴〕長野県の南部、伊那谷のほぼ中央に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスを望む風光明媚な自然の地形に恵まれたまち

〔特産品〕ソースかつ丼、五平餅、ゴ



駒ヶ根市長
杉本幸治



マ、りんご、いちご、そば
〔観光〕駒ヶ岳ロープウェイ、光前寺、早太郎温泉郷、駒ヶ根高原スキー場、駒ヶ根シルクミュージアム
〔イベント〕光前寺しだれ桜ライトアップ、天竜ふるさとまつり、駒ヶ根高原マラソン大会、みなこいワールドフェスタ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

世界につながる人と文化の 交流拠点「鎌ヶ谷」

豊かな自然と生活の利便性を
兼ね備えた交流拠点

鎌ヶ谷市は、千葉県の西北部に位置し、総面積21km²の中に、東武野田線・新京成電鉄・北総鉄道・成田スカイアクセス線の鉄道4線と9駅を有する交通アクセスの至便なまちです。都心から25km圏内にあることから、住宅都市として発展しつつあり、人口は平成22年時点で約10万8000人となっています。こうした発展の中にも、豊かな農地や緑の環境も併せ持ち、おいしい梨の名産地としても全国的に有名です。平成22年7月、空港と都心を結ぶ新たな鉄道「成田スカイアクセス」が開通し、私鉄3線が交差する新鎌ヶ谷駅が一般特急「アクセス特急」の停車駅となりました。都心や成田空港

本年度は後期基本計画の 幕開け

本年4月からは、鎌ヶ谷市総合基本計画・後期基本計画「かがやレインボープラン21」がスタートします。本計画は、少子高齢化の進展などのさまざまな厳しい社会状況の中で、「私たちにできることは任せてほしい」という多くの市民の皆さんからの声をもとに、「市民との協働で達成する計画」として策定



鎌ヶ谷市の代名詞でもある鎌ヶ谷大仏

また、本年度は市制施行40周年を迎えることから、年間を通じて機会をとらえながら市民の皆さんとともにさまざまな記念事業を実施したいと考えております。

プロスポーツなどの 地域資源を活用した 地域活性化のまちづくり

本市のもう一つの特色として、野球・サッカーなどのプロスポーツを活用したまちづくりが挙げられます。市内にファーム球場があるプロ野球・北海道日本ハムファイターズおよび近隣の柏市を拠点とするJリーグのサッカーチーム・

柏レイソルとのイベントなどにおける連携を通じて、地域に根ざした両者の知名度や集客力の向上と、地域への愛着を生むきっかけづくりを進めています。

このような地域活性化施策のための全庁的な推進体制を構築するため、平成20年度から「地域活性化推進プロジェクト」に取り組んでおり、職員の自由な発想による地域活性化の約110のアイデアを集約して策定した「成長の戦略プラ



ファイターズタウン鎌ヶ谷

ン」の具現化を進めております。実現した施策の例としては、駅におけるファイターズの応援歌の発車メロディや職員のポロシャツの着用などによるファイターズタウン鎌ヶ谷のPR、緑のカーテン普及事業、議会の委員会室の自習室としての活用、駅前の観光案内看板設置などがあります。また、市のキャラクターPR事業の一環として、市にまつわるさまざまなテーマのキャラクターを集めた「かがや盛り上げ隊」を作成し、市の行事などで活用してまいります。そのほか、市内を縦断する東経140度線のPRをはじめとする国際化に対応した案内表示など、平成22年度までの取り組みをさらに発展させていくことを予定しております。

新たな課題 「シティプロモーションの推進」

今後の新たな取り組みとして、地域の魅力の向上や情報の発信などといった「シティプロモーション」に力を注いでいきたいと考えております。さまざまな主体が連携しながら、日本一小さい鎌ヶ谷大仏や国史跡・下総小金中野牧跡、梨、ファイターズタウン鎌ヶ谷などと

いった本市の地域資源や、交通の利便性を生かした、メディアカルツーリズムに代表される海外訪問客をターゲットとした取り組みを推進するための検討を行っていくことを予定しています。これからも「持続可能な行財政運営」を基本にしながら、本市が、よ



鎌ヶ谷市のキャラクター「かがや盛り上げ隊」

プロフィール

- ◆ 面積 21・11km²
- ◆ 人口 10万8159人
- ◆ 世帯数 4万4509世帯

〔将来都市像〕緑とふれあいのあるふるさと鎌ヶ谷

〔まちの特徴〕都心と空港の中間に位置し、便利な交通アクセスと豊かな自然が共存するまち

〔特産品〕梨、各種ふるさと産品(梨ワイン、梨ケーキ、手折り麺、瓦せんべい、酢、ソースなど)



鎌ヶ谷市長
清水聖士



〔観光〕梨・ぶどう狩り、鎌ヶ谷大仏、ファイターズタウン鎌ヶ谷、鎌ヶ谷市制記念公園の桜

〔イベント〕YOSAKOIかがや、鎌ヶ谷市産業フェスティバル、鎌ヶ谷市農業まつり、鎌ヶ谷新春マラソン大会、鎌ヶ谷市市民夏祭り、春の牧ウマ祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

魅力いっぱい、淡路島、防災対策と ふるさと資源を生かしたまちづくり

まちの魅力

南あわじ市は、淡路島の南部に位置し、気候温暖で過ごしやすく、神戸市まで80分、全国有数の農漁業地帯です。タマネギ、レタスを代表とする野菜、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品、神戸ビーフや松阪牛の元牛となる繁殖和牛、ハマや鯛、フグなどの高級魚を扱う漁業や海産物、日本三大瓦の一つ淡路いぶし瓦、世界三大潮流の鳴門の渦潮や日本快水浴場特選に



地域の伝統文化である淡路人形

選ばれた名勝慶野松原、日本三大水仙郷の黒岩水仙郷などの自然景観、500年の歴史があり常設館で公演している淡路人形浄瑠璃、見て、食べて、楽しんで、体験いただける観光など、いろいろな「ふるさと資源」を有しております。どうぞお気軽に遊びに来てください。

防災対策

東北、関東地方を中心に日本の歴史上最大といわれる大地震および大津波が発生し、想像を絶する甚大な被害が生じました。その悲惨さを目の当たりにし、涙する光景が目に残りております。被災地の皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになりました方々に衷心より哀悼の意を表します。阪神淡路大震災

を経験した私たち南あわじ市民にとっての防災対策は命を守る対策として非常に重要です。

東南海・南海地震が30年以内の60%〜70%の確率で発生するといわれています。合併後、ケーブルテレビ網による宅内告知放送および112カ所の屋外スピーカー・サイレン、屋外監視カメラ、離島沼島のヘリポート、小中学校耐震化100%達成、保育所の耐震化、備蓄食糧や資機材の拠点施設並びに津波防災ステーションなど、県とともに多種多様で巨額の投資を行ってまいりました。しかし、最終的には市民一人一人の心が構えが大切です。

「自分の命は自分で守る。家族の命は家族で守る。地域の命は地域で守る」を基本理念とし、個人、家庭、地域が防災意識を高く持つ

ていただき、災害発生時には迅速に対応し、避難することを忘れてはなりません。自主防災組織を中心に地域で助け合い、冷静に行動できる体制づくりを再度見直すとともに、全小学校や淡路島一斉の防災訓練を実施し、防災意識を高めます。本年は、気象・津波警報や緊急地震速報などの緊急情報を受信する全国瞬時警報システム(アラート)を導入し、CATV網を通じて屋内外に発信します。

少子対策

少子対策に力を注いでいます。少子対策推進本部、少子対策課を設置し、雇用・定住対策、結婚促進、子育て環境の改善、女性の就業環境づくりなど、総合的に事業を推進しています。保育料第二子以降無料化の実施、0歳から小学3年生までの入院費を無料、中学3年生までを軽減、通院費は3歳未満までを無料とし、小学3年生



「淡路ファームパークイングランドの丘」のコアラ

までを軽減しています。

また、縁結び事業や通勤通学助成、新婚世帯家賃補助や特定不妊治療費助成、在宅子育て支援や子育て学習支援センターの拡充、学童保育や放課後子ども教室、学び資金利子補給など多面的に実施しています。併せて、子どもの心に内視鏡を入れるべく、杉良太郎さんが提唱するアジア国際子ども映画祭の広域予選会や国際大会を開催します。

人口減少・少子化に歯止めを掛けるため努力しておりますが、施策の効果を注視する段階です。産業振興や企業誘致などによる雇用確保や結婚促進になお一層力を注いでまいりたいと考えています。

資源を生かしたまちづくり

ほかに力を入れているのは職および食づくりです。安心・安全を求める「食」、地域活力に欠かさない「職」を振興するため、特産品の販売戦略と体験・交流・学習を組み合わせた総合的な観光産業の発展を目指しています。

政府の示す新成長戦略総合特区制度に基づき、「あわじ環境未来

島構想」を兵庫県、淡路島3市共同で申請し、食と農の持続を中心に、エネルギー、人生の持続をテーマとしたさまざまな可能性に挑戦してまいります。

TPPの動きが懸念されますが、食のブランド戦略を推し進め、販売流通の変革を目指すため、食の拠点施設の整備や東京・大阪などでのPR活動、都市商店街や企業との連携により文化を含めた情報発信に力を注ぎます。

淡路島牛井や淡路島ヌードル、淡路島バーガーは、特産素材、飲食店、観光と融合し、淡路島そのもののイメージを膨らませています。オニオンチップスのような新しい商品や雇用を生み出すため農工商などの連携と併せ、起業促進やネット販売への挑戦、マーケットイング活動を積極的に推進したいと考えています。瓦振興においても、アジアで実績のあった海外展開を支援し新たな販路拡大を推進します。

結び

最大のテーマは市民力、地域力発揮への挑戦です。新庁舎建設の推進と並行して、市民交流セン

プロフィール

- ◆ 面積 229・17km²
- ◆ 人口 5万1558人
- ◆ 世帯数 1万8549世帯

〔将来都市像〕「食」がはぐくむふれあい共生の都市

〔まちの特徴〕国生み神話のまち。大和時代の御食国。野・山・海の幸が豊富で人形浄瑠璃発祥の地

〔市町村合併〕平成17年1月11日、緑町、西淡町、三原町、南淡町と対等合併



南あわじ市長 中田勝久



〔特産品〕タマネギ、レタス、びわ、乳製品、淡路ビーフ、ハマ、桜鯛、淡路島3年とらふぐ、素麺、淡路いぶし瓦

〔観光〕淡路人形座、うずしお観潮船、慶野松原、灘黒岩水仙郷、海釣り公園、淡路ファームパークイングランドの丘

〔イベント〕うずしおまつり、淡路だんじり祭、慶野・福良花火大会、食と文化の市民まつり、水仙まつり、コアラ祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域の魅力再発見

東北関東地方における地震と津波で被災された方々やその家族の方々に心より哀悼の意をささげますとともに、一日も早い復旧と安心して過ごせる日を迎えられることを心よりお祈り申し上げます。

まちの特性と課題

大田市は、戦国時代から江戸時代にかけて、銀産出により世界経済に大きな影響を与えた石見銀山を中心に栄えた歴史を有し、日本海、国立公園三瓶山、温泉津温泉など豊かな自然と貴重な歴史に恵まれ、何よりも温かな人情にはぐくまれたまちです。しかしながら少子高齢化、過疎化の波により、平成17年の合併時点で4万703人の人口が5年を経て4万人を割り込み、地域産業などさまざまな分野において深刻な影を落としております。

石見銀山遺跡は、銀の生産活動の様子はもちろん、当時の町並みや生活様式、流通の仕組みなど、極めて良好な状態で保存され、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。豊かな自然とともにある遺跡の保全を図りながら、産業、教育、文化など、多方面に生かし、地域の活性化につなげる取り組みを進めています。また、ユネスコ憲章がうたう「平和と人権尊重」の世界遺産の趣旨にふさわしい地として、価値と魅力を明らかにし、未来に引き継いでまいります。

さて、金融危機に端を発した世界的な景気後退は、国内的には持ち直しに向けた動きが見られるものの、失業者は高水準で、特に地方においてはさまざまな影響が生じ、依然厳しい状況に置かれております。本市を含め、過疎化、少子高齢

化、人口減少により、後継者不足などとともに、コミュニティの維持が困難な地域も現れており、今後は、これまでのような右肩上がりの志向から、地域が持つ資源を生かしながらそれぞれの課題を解決し、持続可能な社会の実現が求められているものと思えます。

自然・歴史・ひとが 光り輝く誰もが住みよい 県央の中核都市

このような中、本市の地域特性を生かした一体感のあるまちづくりを基本理念に大田市総合計画をはじめとして、「自然・歴史・ひとが光り輝く誰もが住みよい県央の中核都市」の実現に向けて新たなまちづくりに取り組んでいるところです。人口減少は、各分野における担い手の減少や消費の停滞など、地域経済全体の

活力を損ない、定住の促進に向けた総合的な施策の展開が急がれることから、産業振興と雇用創出、子育て環境の整備、住宅対策、魅力あるまちづくりを柱に平成20年には定住促進ビジョンを策定したところです。

まず、「産業の活性化なくして地域の自立発展なし」との考え方の下、①外貨を獲得する産業の育成、②新たな交流人口の拡大を促す産業の創出と育成、③地産地消による地域内消費の推進、④新たな外部資本の導入による雇用機会の拡充を目標に施策を展開いたしております。具体的には、地域産品の販路拡大と商品力の強化を図り、地場産業である石州瓦の利用促進、新たなものづくりや技術開発の支援、企業誘致、農業の担い手の育成などに重点的に取り組んでおりますが、特に定住促進の観点から、若年層の地元定着とUIターン希望者などを対象とした職業紹介を行う取り組みを進めております。

誰もが住みよく安心、安らぎを感じる生活づくり

次に、子育て環境の整備ですが、「子どもを健やかに生み育てることができる環境づくり」として、幅広く支援策を展開いたしております。代表的な施策として、義務教育期間中の医療費負担の軽減をはじめ、保育料の無料化や軽減、休日保育や延長保育、待機児童の解消に向けた保育ママ制度の導入、さらに放課後児童クラブを設けるなど、子どもの居場所を確保し、家族が仕事と子育ての両立が可能となる子育て環境の整備を進めているところです。

快適な基盤づくり

さらに住宅対策では、若年層や家族世帯またUIターンの者の快適な住環境を確保するため、公営住宅の計画的な整備とともに自然回帰志向と都市生活者を中心に田舎暮らしの関心が高まる中、空き家を地域資源の



江戸時代の中ごろに開発された龍源寺間歩(坑道)

一つとした活用を始めております。参画と協働によるまちづくり

平成18年度をまちづくり元年と定め、市内全域27カ所にまちづくりセンターを設け、それぞれの地域が資源を生かし、課題を解決する取り組みを支援し、市民誰もが住みよいと思えるまちの実現を目指しています。同時に市民と行政の協働による魅力あるまちづくりを進めており、今では日常生活での困りごとを共助の精神で解決する取り組みなども生まれてきております。

また、定住人口の増加を図る具体的な事業として、平成21年度から定住推進員を配置し、東京や大阪などの都市生活者の定住相談の場にも出向き、本市のPRに努めるとともに、空き家所有者の理解の下、インターネットなどで空き家を紹介し、UIターンのご希望にお応えしております。制度開始から今日までの2年間で43件、ご家族を含めると113名の方が新たに市民となられたところで、改めて地域の魅力を見つめ直す機会につながっております。また田植えや稲刈りなどの農業体験を通じて、田舎暮らしの楽しさや厳しさを体験してもらい、地域の人や文化、自然に直接触れるツアー

プロフィール

- ◆ 面積 436・12km²
- ◆ 人口 3万8955人
- ◆ 世帯数 1万6049世帯

〔将来都市像〕自然・歴史・ひとが光り輝く誰もが住みよい県央の中核都市
〔まちの特徴〕島根県の東西の中央部に位置し、海、山、そして世界遺産石見銀山遺跡など、豊かな自然と歴史に育まれるまち

〔市町村合併〕平成17年10月1日、旧



大田市長 竹腰創一



大田市、旧温泉津町、旧仁摩町の1市2町で合併
〔特産品〕やきもの、石州瓦、三瓶そば、ストカまぼこ、海産物、メロン、西条柿
〔観光〕石見銀山遺跡、国立公園三瓶山、温泉津温泉、仁摩サンドミュージアム
〔イベント〕やきもの祭、天領さん、彼岸市、五十猛グロ、さんべ祭、くびきウォーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。